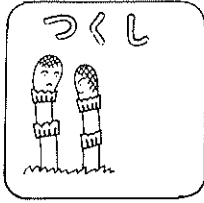




今運動会たけなわ、三年前の孫の運動会の事です。

三歳、四歳の女孫の保育園に全員で七百八十名くらい集り、小学校なみのにぎわいでした。遊戯、全員ダンス、親子フーズン割り、綱引、障害物、帽子取り、借り物競争、親子パン食い競争、組リレー、組リレーがあり、その間上級の応援団が手にフーズンをつけて、たびたびくりだし、はなばなしいでばえでした。孫は二人とも、組リレーを一番で走り、自分の持ち前を止しくやっていたの



ました。

ちょうど孫(姉のほう)の遊戯の時、隣の男の子がいつも左右前後を間違えて衝突ばかり、末には「あんたこつちへ向くの」と言つて孫が手を借す仕末で、その仕草が面白いので面白くこつちいで、皆様の笑いの種で、孫の機転にはうれしく笑い泣きました。

いよいよ注目目紅白責任リレーの番です。誰れが選ばれるか、紅一点の的と思いきや、一番に紅がスタートし、「さあ行け、さあ走れ、ガンバレ」と、両親、私ともどもの応援に、孫(妹のほう)が

三年前の孫の運動会

清岡照子 (立田)

「難し、次の姉もよく走つて、難し、続く上組もめかれる事なく、紅が優勝を獲得しました。後で話ですが、孫(妹のほう)が走る時、名を呼び応援しましたところ、両親のほうへ入りかけ、後の子もついで同じ様に回り道。これまたユーモアたっぷりな競争で大爆笑となりました。孫曰く、「けんど名を呼んだじゃいか。」

今は孫の姉のほうが一年生、妹のほうが幼稚園ととも友達と仲良く成長してくれることを祈る祖母です。

農協会館の落成と秋の豊作感謝の意味をこめて——『第1回南州市農協まつり』が、11月11日から3日間、南園パイパス沿いの市農協会館で開かれました。

会館のなかはもちろん、駐車場などもフルに活用。農産物品評会、農協婦人部の生活工夫展、乳牛品評会をはじめ、植木や農産物、農機具、自動車の展示、金融相談や健康相談コーナーも開設されるなど、盛りだくさんの内容。なかでも、野菜やつけ物、こんにやくなど「手作りの味」は品物が足りなくなるなど、なかなかの好評で関係者を喜ばせていました。

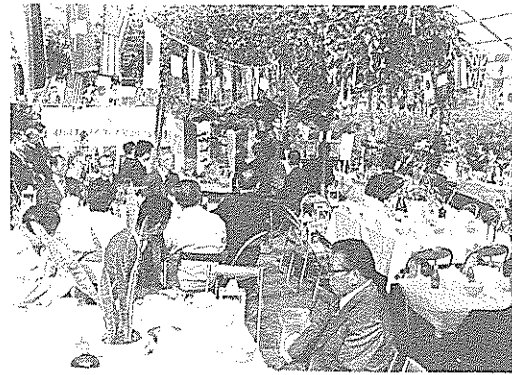
たくさんの方が訪れ、にぎわったこの催し、市農協では「組合員や市民に農協をよく知ってもらうためにも、これから毎年開きます」と話していました。

好評だった第1回農協祭



定期観光バスにCコースが開設

高知駅を起点に高知市近郊を巡る『鷹彦定期観光バス』。これまで運行されているA・Bコースに加えて、このほど新しくCコース(高知駅—西島園芸圃地—河洞—高知駅)がスタートすること



になり、11月10日、西島園芸圃地で記念式典が行われました。

このコースは、土佐電鉄と県交通によって毎年11月から翌年6月末日までの季節運行。毎日高知駅を午後1時40分に出発して、午後5時5分高知駅着の半日周遊コースとなっています。

この圃地にはメロンやスイカ、トマトなど季節を先取りする「味覚」がいっぱい。訪れる観光客に喜ばれそうです。

なお、(コースの料金は、大人(中学生以上)2,200円、小人1,210円。

南国俳壇、歌壇、柳壇に原稿をおよせください。個人でも、団体でも、市民の方なら自由に投稿できます。ハガキ

または手紙に、住所、氏名を記入のうえ広報係まで。(立田の桃里さん、住所、本名をお知らせください)。

南国俳壇

和泉修司 (大篠俳句教室)
富田光宇 ()
井上鉄 ()
楠瀬統子 (花柳俳句会)
岡田昌子 ()
岡田寿子 ()
門田けんぶ (茅花の会)
浜田民由 ()
山崎賢 ()
桃里 (立田)

南国歌壇

祖母われに小遣いあげると銀貨一枚 包まれてあり封書幼なし 岡豊町 葛目治子

晩秋にそはの花なみ色あせし 父のおもかげこれにぞ似たり 山村 小川繁子

惜しみなくあい深き日のやさしさに 通かな善子にしきり逢いたく 前浜 沢田千恵子

南国柳壇

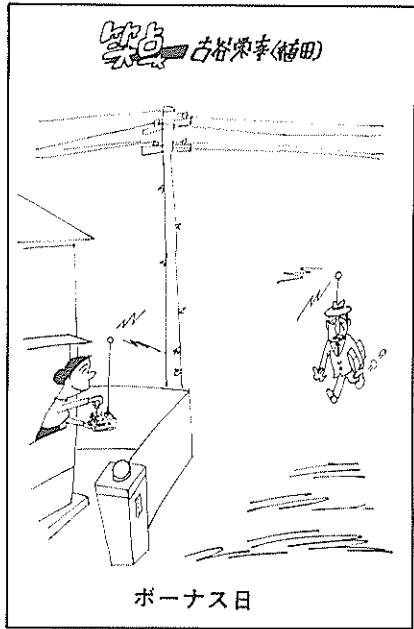
歌人の住みてふ菲生の里訪へば 昔ながらの秋の風吹く 立田 桃里

天を指す鉄肥の秀群青のこ 日向の山の秋は豊けし(宮崎) 西野田 吉川定子

動くともなき白雲に兆す冬 風そそうと穂すすきを吹く 丸岩 島本 栄

菊日和園地のふとんカラフルに 立田 北村華江

角(嫁)隠し長く保とう長い坂 修養が足りず他人のアラが見え 古市 長野福美



ボーナス日

十市の中心地、札場からだからと北へ下がったところに樋乃口というところがある。ここは昔から狸が出没するところとして知られていた。この狸は、よく人を化して遊ぶ、悪い癖があった。

ある晩のことである。神官さんが、ある家の家折とうに招かれた。狸おりに折とうが行われ、いよいよ宴会になった。お酒には自信のある神官さん、夜の更けるのも忘れてごちそうになった。いささか酔い、至極満悦の体で帰っていった。

樋乃口の橋のたもとにさしかかった。ふと川面をみると、大きな鯉の群れが列をつくりゆ



狸に化かされた話

うゆうと泳いでいる。神官さんはびっくり。「こりやみことじや」

早速川にとびこみ、泥まみれになつて鯉をつかまえていると、顔見知りの男が通りかかった。じやぶじやぶ、じやぶじやぶ、川でひどい音がする。この夜更けに何事かと橋からのぞいてみると、神官さんが泥まみれになつて何やらしきりにやうつてゐる。

「神官さん、何をなさいます。」

「何かあるか。みてみよ、この大きな鯉を。」

神官さんはふり向きもしないで、いっしょうけんめいになつて泥とたたかっている。この男は、「ハハハッ、神官さんはとうとう狸に化かされたな」と感づいて、やうと川から引き上げ、いっしょに連れて帰つてやうたという。

この付近は、また鯉の多くとれるところとしても知られている。雨が降りつづいて少し水が出ると、きまつて鯉があつまつてくる。

一日中降り続いた雨は、夜になつてもなかなかやみそうにもない。

「今晚ころは、必ず鯉の出ぞうな晩だ。」

漁好きの男は籠と網をもって出かけた。雨はまだ降り続いている。橋のたもとに来ると、おるわおるわ。大きな鯉がもちやくり返しておる。

「こりやまた、えらい鯉じや。」

こんな鯉はみたことがない。ひとりごとをいながら川岸へおりて行った。籠はたちまち鯉でいっぱい。「明日の朝は近所の人たちを驚かしてやろう。」

こんなことを考えながら得意になつて帰ってきた。籠を軒先につるしてそつと寝床へ入った。

あくる朝、近所の人たちを驚かしてやろうと、早速鯉先の籠を下ろしてみると、こりやまたどうしたのか。鯉と思つていたのは、だれかが捨てた腐った大根の漬物であつたという。



市民の手で南国市の歴史館を

【問い】
南国市は北部の山々、南の大平洋その間に広がる香長平野、歴史と自然がいつばいの都でありま。しかしながら、時代とともに



都市化の傾向は強まり、あらゆる産業はその姿を少しずつ変えつつあり、それに市民の生活様式も大きく変ってきていると思います。祖先が築き上げてきたこの歴史と産業を自然を守り後世に残すことは、現世の市民のなすべきことではないでしょうか。

そこで提案ですが、市の歴史館のようなものを市民の手で作られないものでしょうか。その中には農業、商工業、教育文化などあらゆる関係の資料、物などを収集し、南国の歴史がいつばいつまった文字とりの歴史館……夢ではなく

きつと立派なものができるはず。県下でも六市町村で立派なものが出ています。時期は決して早くないと思います。市当局のお考えまた構想があればお教えいただけますようお願いいたします。

中越謙三(廿枝)

【答え】
ご承知のとおり、南国市は文化財の宝庫です。すでに多くの考古資料が出土しており、今後ますます発掘されることが予想されます。また、歴史民俗資料も、今収集し保存しなければ永遠に散逸してゆく貴重な資料が、市内のご家庭には相当あると思われれます。こうした大切な資料を一堂に保管展示して多くのおみなさんの学問

研究に資するため市文化財審議会、教育委員会でも早くから考古資料館や民俗資料館、歴史館などを含めた文化会館建設を考えてきました。しかしながら、市の財政計画により教育予算についても大幅な削減を余儀なくされ、今後この状態が続くことが予想されます。そのうえ教育上設置できない義務教育施設の増設には多額の予算を必要としています。こうしたことから、とりあえず市の不用施設などを利用してこれらの集積、保存に努めていきたいと考えています。

【教育委員会】



ご家庭で話し合ってお答えください。答えは今月号の広報に出ています。

■もんだい・市民の生の声を直接市政に反映させようとして始めた市政モニター制度も、今年で○年目になります。

■しめきり・十二月十五日(日)

■おくり先・〒783 南国市大浦甲2301 南国市役所内広報委員会 親子クイズ係

■答えのハガキには、必ずお歳・職業・住所を書いてください。

■賞品・特賞千円、三人、残念賞(記念品)五人

■第八十六回正解発表

■答え・市民賞では(○名・二人)体を表彰しました。

■特賞・千円、三人

■山本初子さん(福生)

■杉本 香さん(大地)

■土居千代子さん(十市)

■残念賞(記念品)五人

■泉相雄(大地)筒井竜一(植野)

■杉本幹雄(東崎)黒木真理(後免町)西木智砂(植田)

おめでとございませう。これからもどうぞご応募ください。

川を大切に

つい先日のこと、南国病院に入院中の恩師を見舞うため、私は二歳になったばかりの孫の手をひいて後免の東町から舟入川沿いの歩道をバイクの方へ歩いていった。対岸にはコスモスが咲き乱れ、空にはうららかな秋。覚えたばかりの「お手々つないで」を片言で囁く孫。言うことなしの幸せいは、ふと川の中に眼を落した私は余りの川の汚さかと思

わず足を止めた。腹にひっかかったダンボールの紙、ビニール、木片、空缶で川はまるでゴミ捨て場。川底にはジュースの空缶がゴロゴロ。かき集めたらトラックに一ぱいはけっこうありそう。これが、流域住民の公徳心の低さを裏付ける実態なのかと暗然たる心地。私の住む部落でも、川へ草やゴミを平気で捨てる人を時々見かけるから余り大きな事は



言えぬかも知れないが、あんな汚い川は高知市付近でも余り見かけない。

「日本人は自分の物は大切に公共物はどうでもよい民族だ」とよく言われるが、全く情ない限りである。仕事も大事、勉強も大事だけれど、人間としての温かい思いやりとか他人に迷惑をかけるな

で生活をする心配りをもう少し大切にしたいものである。それはやはり幼児のうちから家庭で、特に母親が折にふれて「しつけ」をしてゆくことよってマナーを身につけさせる事が一番大切なように思う。仮りに先進国と言われる日本人としての誇りをもって、世界に恥かしくないマナーを幼少時代にこそ身につけさせることを、私は改めて南国市中のお母さんたちに声を大きくして呼びかける次第です。

一市民

洗剤のうそぶき

おいら、生れは石油のかすよ。あの手この手でおいらを飾り、ふわあまあつ白、なんて、きれいな姉ちゃんに抱かれて、ちやほや育てた育ての親は、おいらのおかげでもうけてらあ。

の家庭も大歓迎で、まずは猫をかぶつておとなしく、やさしいかあちゃんの手を荒らし、川のようにうをぶんなぐり、田んぼの稲の根をかじる。

海のギヤングの較さまよりもおいらの魔力は効きめは遅いが抜群さ。農薬、廃液、さまざまなヤクの仲間と腕組んで、じわりじわりとうまい魚にとりついて、骨までしゃぶって食いつくす。

の見るも奇妙な赤ん坊に、親は眼で泣く泣くさ。『公害なくせ』と叫んでも、地球の生物もろとも人間僕滅おいらの必さ。



現在、川や海を汚す最大の公害は各家庭から出る洗剤だと警告されています。しかも、これは動物質で絶対に分解されません。今こそ私たちの健康と自然環境を守るため、洗剤の使用を止めて昔ながらの害のない石けん粉を使おうではありませんか。石けん粉は洗剤の半量でよく油あかを落とします。

武市文志(立田)

同和対策事業について

(三)同和対策の総合推進

同和対策は、先回で述べたとおり、地区住民の生活基盤を確立し差別をうける生活条件や環境を改善し人間らしく生きていけるようにするために、生活環境の改善、産業、職業の安定がきわめて重要であることが理解できたことと思

い同和地区では過重な原始的労働と食生活の貧困から病気に對する予防措置ができず、そのうえ地区内には医療機関が皆無でありま

な推進が必要になってきます。同時に、地域住民の人権を守るために人権擁護活動の推進にも積極的に取り組むべきであります。

同和教育シリーズ ㉔

部落解放への道標

地区の人々は、差別と偏見によってつくりだされた貧乏が原因となり、誘因となって社会福祉の面でもとり残されています。

さらに、福祉事務所、児童相談所、隣保館や社会福祉協議会、学校、地域関係団体などと緊密に連

絡提携して地区の福祉面の積極的な推進が必要になってきます。同時に、地域住民の人権を守るために人権擁護活動の推進にも積極的に取り組むべきであります。

訂正します



十一月一日号の同和教育シリーズ㉔で、三段目の十七、八行「就職先につくことが原因」は「就職先につくことができないのが原因」の誤りでした。おわびして訂正します。